

とが正しくわかってもらえ、受容されたと感じるのである。こういう時の喜びと安心感は大きく、それが、もっとわかってもらいたいという願いに発展し、話を続けてくれるのである。

4. 沈黙は語る

先生： 今度はがんばろうと思ったのに、実力を出しきれずにくやんでいるんだね。

生徒： ええ…………… 実は、試験の前にかぜをひいたのは、わけがあるんです。

先生： そう、何かあったの？

生徒： ええ、実は、父親がうるさく言うもんだから、外にとびだしちゃったんです。雨が降って、どうしようかなあと思ったんだけど、そのまま帰るのはシャクだったもんだから、しばらく、外をブラブラ歩いてたんです。

先生： そう、雨の中を歩きまわってた……………。

生徒： ええ、だいぶたって、母が公園まで迎えに来てくれたんです。 ……母も迎えに来るのに、父親に気をつかうんです。 ……すぐたたいたりするもんだから…………… 友だちなんか、自分の部屋もっているし、勉強の時なんか、まわりで気をつけてくれてるみたいなんです。ところが、家では…………… 逆で…………… 父親がいると、いつも皆でピリピリしてるみたいなところがあって、さっさと自分の部屋に入っちゃうんですけどね。だから、父親がおそい時は、伸び伸びしているんです。すぐにどなるもんだから…………… 本当にいやなんです……………。

先生： お父さんが口うるさいんで、家の中が暗くなって、君も勉強どころじゃないというわけだね。なるほどね……………。

面接の中で、よく、相手が黙ってしまうことがある。先生からみて、ともすれば、時間の無駄、あるいは、意味がないという気がして、イライラしたり、あせったりしがちである。

そこで、この例で、沈黙のもつ意味などについて考えてみたい。